

1 題材名 これがかきたい

2 題材設定の背景

題材観

本題材は身近な材料を見たり触ったりして感じたことをもとに、オリジナルの筆やペンなどを作ることを通し、材料の特徴や試して描いた線や形を生かしながらどのような筆やペンなどを作るかを考えさせることをねらいとしている。子供1人1人が木の枝や毛糸などの材料を集め、見たり触ったりして材料と対話することで「この木の枝から細い線が描けそう」、「木の枝を組み合わせたらたくさん線が描けそう」などの思いをもつ。その思いをもとに、子供は、オリジナルの筆やペンなどを制作していく。制作しながら試し描きをすることで、「先をもっと太い線にしたい」、「この線を増やしたらおもしろそう」などの思いをもち、試行錯誤する姿につなげることができる。また、材料により、特徴や描いた線や形の特徴が変わるため、子供1人1人の作品や描いた線は異なる。友達の作品や描いた線を見ることで、「この線や形はいい感じだ」、「自分もこんな線や形が描ける筆を作ってみたい」などの思いをもつ。このような思いは、子供同士が声をかけ合う姿や試行錯誤する姿にもつながる。このように、材料の特徴や描いた線や形を生かしながらオリジナルの筆やペンなどを作るという本題材に取り組むことで、作品と対話する姿、試行錯誤する姿、声をかけ合う姿につなげることができると思う。

子供観

3年生から書道が始まり、子供は筆に力を加えると線が太くなり、優しく持つと線が細くなるということに気付くことができた。また、絵の具の授業では、筆の持ち方や塗り方により表現が変わることを理解し、様々な線を積極的に描く姿が見られた。このことから、材料の特徴や描いた線や形を生かしながらオリジナルの筆やペンなどを作ることに興味をもつと考える。一方で、絵の具の授業では、様々な線や形を自由に描くという活動に抵抗感をもち、描くことができない子供がいた。材料の特徴や描いた線や形から作品を作る際にも、自信をもつことができない子供がいることが想定される。

集団観

考えや感じ方の違いを受容し、1人1人の考えや感じ方を大切にしながら、主体的に学ぶことができる授業集団を育てる。本学級の子供は、友達の成長などを素直に喜ぶことができる子供が多く、お互いを認め合う土壌が育ちつつある。一方で、自分の考えを主張しすぎる子供や友達と考えが違うことに不安を感じ、自信をもてない子供もいる。そこで、本題材では基本的に4人班活動する。そうすることで、友達が何に困っていて、何に心を動かされているのかという過程に目を向けることができる。そして、その過程から、1人1人の考えや感じ方は異なることを理解させ、お互いを受け入れる集団を育てていきたい。

指導観

材料の特徴や描いた線や形に着目して作品の発想を得られるように、2点留意する。1点目は、作品例の提示である。材料を組み合わせたものや、枝の形から発想を得たもの、力の加減で線や形が変化するものなどの作品を提示することで、材料の組み合わせや材料の特徴により、描ける線や形が変化することに着目させたい。2点目は、発想を得る時間の確保である。1人1人が材料を探し、材料と向き合ったり、制作前の材料を使って線や形を描いてみたりするなどして、発想を得る時間を設けたい。

また、自信をもって取り組めるように、2点留意する。1点目は、教師の意図的な声かけである。上述のような発想を得る時間を設け、「この線がいい感じだね、この線と線を組み合わせたらどうなるかな」などと教師が意図的に声かけをすることで、自信をもたせたい。2点目は、座席配置の工夫である。お互いの作品や試描きの線や形が見える座席配置にし、友達の表現を自分の表現に生かす機会や相手のことを考えた声かけをする機会を作り出し、自信がもてるようにしたい。

3 題材の目標及び計画(全4時間)

■題材の目標

身近な材料から筆やペンなどを作る活動を通して、材料の特徴や試して描いた線や形を生かしながらどのような筆やペンなどを作りたいかを考えることで、作りだす喜びを味わうことができるようにする。

■題材の計画

第1次 材料を集め、材料を見たり触れたりする・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

第2次 オリジナルの筆やペンなどを制作する・・・・・・・・・・・・・・・・・・2時間(本時2/2)

第3次 制作した筆やペンなどを鑑賞する・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

4 題材の評価規準

保育・教科部 図画工作科

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
材料の特徴を生かして、つける、組み合わせるなどの方法を試しながら工夫し、自分の表したい感じに合うように作っている。	材料の特徴や感じたこと、描いた線や形から、どのようなオリジナルの筆やペンなどを作るかを考えている。	試行錯誤しながら、材料を組み合わせたり、描き心地を試したりしている。

5 本時の学習

■目標 材料の特徴や描いた線や形から、どのような筆やペンなどを作るかを考え、筆またはペンを作成する。

■レジリエンスを発揮している子供の姿

友達の作品や描いた線や形に触れ、試行錯誤しながら、どのような筆やペンなどを作るかを考えている姿。

■学習過程 ※ (全) (小) (個) : 学習形態 (全: 全体の場合 小: 小集団 個: 個人) ㊟: 留意点 ㊞: 評価の観点 (方法)

学習事項	子供の活動	教師の働きかけとねらい	集団
1. 学習課題への接近	(1) 教師が制作した筆で描いた線や形を見て筆の特徴を想像する。 ・細い線が集まっているね。木を組み合わせたのかな。	(1) 「どんな材料を組み合わせで線を描いたと思う？」と問いかけることで、線が変わることに気付かせる。	(全) 活動のイメージや意欲をもつことができるようにする。
2. 学習課題の設定	(2) 本時の課題を確認する。 ・描いてみたらどのような線か分かるね。 試しがきをしながら、オリジナルの筆やペン、スタンプなどをつくろう。	(2) 描き心地に注目させるために、教師の制作した作品を見せ、作品の特徴、描き心地について紹介する。	(全) 本時の学習課題を共有できるようにする。
3. 学習課題の追求 (材料、自分や友達の作品との対話)	(3) 4人グループになり、オリジナルの筆やペンなどを作る。 ・木の枝が2つに分かれているからコンパスみたい。コンパスの持ち手を作ろう。 ・ストローを組み合わせたら花のスタンプができたから、枝にこのスタンプを付けて花の筆にしてみよう。 ・〇〇さんの線がすてき。その線が描ける筆を作ってみたい。どうしたらいいかな。 ・(試し描きの線を見て) この線を描いたのはだれかな。どうやって描いたのかな。 ・〇〇さんの筆で描いた線がいい感じだね。この線を増やしたらもっとすごい筆が作れるね。	(3) グループの中で、お互いの作品を見たり、困り事を共有したりする機会を設け、試行錯誤する姿が生まれるようにする。 ・接着剤をどのような場面で使用すればよいか指導する。活用できている子供を全体で取り上げ、接着剤の効果的な活用場面を共有する。 ・困っている子供には、一度線を描かせてみて、「この線と線を組み合わせたらおもしろそう」「〇〇さんが面白い組み合わせをしていたよ」などと声をかけ意欲をもたせる。 ㊟他の子供の作品が見える座席配置にしたり、試し描きができるようにしたり、自由に使える材料置き場を設けたりする。 ㊞材料の特徴や描いた線や形から、どのような作品を作るかを考えている。(行動観察、ワークシート)	(小) 他の子供の表現を自分の表現に生かすことができるようにする。また、お互いの考えや感じ方を認め合う声かけが生まれるようにする。
4. 本時のまとめ	(4) 制作を通じて感じたことを振り返る。 ・〇〇さんが綿を使っていたから、私は綿を使って雲を描けるペンを作りました。雨のスタンプも付けました。	(4) 友達との関わりや試行錯誤を通して、自分がどのような作品を制作したのかを振り返らせる。 ・次時には、作った作品を使ってみることを伝える。	(個) → (全) 本時の活動を自分自身で振り返り、全体で共有できるようにする。